

## 令和5年度 第4回中央特別支援学校 学校運営協議会 報告

1 日 時 令和6年2月22日(火) 午前9時30～11時30分

2 会 場 本校 大会議室

3 参 加 者

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】 静岡市あさはた緑地管理事務所長 所長

【委員②】 静岡県立こども病院 副看護部長兼教育看護師長

【委員③】 静岡てんかん・神経医療センター 療育指導室長

【委員④】 本校PTA会長

\*欠席 【委員⑤】 静岡県社会福祉協議会 福祉企画部経営支援課長

【委員⑥】 静岡大学教育学部 准教授

(2) 校内教職員〔中央特別支援学校〕

校長、副校長、教頭、事務長、各学部主事、病弱・訪問主任、寮務主任、寄宿舎チーフ  
教務課長

4 会 議 次 第

(1) 校長挨拶

(2) 目的・日程説明

(3) 学校評価についての説明

(4) 本年度の学校防災における取組報告

(5) 運営協議委員との協議・意見交換



「会議風景」

5 校長挨拶（校長）

日頃より本校の教育活動に御支援、御協力をいただき心より感謝している。元日に石川県を中心に発生した能登半島地震があり、多くの被害が出ている。亡くなられた方には心よりのお悔やみを申し上げますと共に未だなお避難生活を送られている方にもお見舞いを申し上げます。全国特別支援学校校長会でも石川県についての状況が報告されている。

本日は、学校経営について様々な立場からの多様な御意見、御助言等をいただき、来年度より質の高い教育を目指し、学校経営に生かしていきたい。

6 目的・日程説明（副校長）

学校経営における取組と自己評価について、次に、学校運営協議会の取組の重点とした防災への取組の報告を行う。様々な御意見、アドバイスをいただきたい。いただいた御意見を来年度の学校運営に生かすことが大きな目的となる。

7 学校評価についての説明（教頭）

資料「令和5年度学校関係者評価実施報告書」をもとに、教職員と保護者による学校評価の数値とその根拠等を成果と課題として説明

8 本年度の学校防災における取組報告（安全部長、防災課長）

資料「今年度の防災に関する取組について～まとめ～」をもとに、取組の成果と課題、今後と取り組みたいことについて説明

## 9 運営協議委員との協議・意見交換

### (1) 学校評価について

#### ア 委員①

- ・全体的に達成率が高い評価である。医療的ケアの生徒の対応の部分では低いように思える。その要因はどう考えているのか。
- 保護者全体にアンケートを取っているため、医療的ケア対象の保護者以外の保護者も含め全保護者が回答しているため、医療的ケアのことについては「分かりません。」といったA、B以外の評価になる回答もある。そのため数値としては下がってしまう傾向がある。
- ・基本的にはすごく高い評価を得られている。保護者の理解も得られていると思え、日常的なコミュニケーションがとれているあらわれであると思える。目標が100%や90%と高く設定されていて、達成できていることが凄い。が、達成され慣れてくるとPDCAが回せなくなる。教員の入れ替えも毎年あると思うが、この形でやっていけば良いのかと思う。
- ・医療的ケアを必要とする方への対応も学校だけでは全部は難しい。安心感を与えるように、コミュニケーションが大切になる、伝え方を考えていって欲しい。

#### イ 委員③

- ・学校評価の結果から保護者にも伝わっていると思う。「生きる力を育む授業実践」で、個別の教育支援計画や個別の指導計画の説明を、きっちり保護者に伝えてあることが良い。保護者にもある程度伝わっていると思える。保護者が満足できていること把握して生かしていると感じた。
- ・児童生徒本人の評価は難しいが、いろいろな法律を見ても本人の意思決定などが大切であると耳にする。本人の意思をどう授業に生かすかは十分に考えていると思うが、どう授業に生かし、保護者に伝えているのか。本人と家族で求めるものが一致しないこともある。本人が良い一時間、一年だったと思うことが大切となる。授業を見学すると、先生方はよくやっていると感じる。今後もそのままやっていって欲しい。
- 人権アンケートに関しては子どもたち自身の声を大事にしている。また、子どもたちの様子を思い浮かべながら教員が学校評価をしていると思う。

#### ウ 委員②

- ・活動している内容が、お便りや掲示物などからよく分かる。校内に成果物が分かりやすく掲示してあり、それは保護者にも伝わり温かい気持ちになる。季節によって変わっていき、掲示物がとても良い。
- ・「安心・安全な給食の提供」で80%を越えているのに評価Bであることが不思議に思う。また、「地域や社会に開かれた学校づくり」では、このような機会がありいろいろな声を聞いて良かったと思う。かなりいろいろな発信をしていると思うが、どうなのか。
- 評価は、成果目標に対しての達成状況となる。数値が全てでは無いのは分かっているが今後のブラッシュアップの方法を模索している状況である

#### エ 委員④

- ・一保護者としては、細かく取り組んでくれていると思う。先生方も今年度はいろいろフェーズが変わり苦労したと思う。防災などでも現在過渡期であると感じる。先生方も苦労していると思うが、一生懸命やってくれていて感謝している。
- ・作品展でスターボックスに行ったら、活動している子どもの写真があり感動した。一生懸命にやっている姿が作品の横にあるのがとても良いと感じた。来年度も続けていってほしい。



「意見交換」

## (2)防災の取組実践から ～医療的ケア・情報発信・施設整備などの提案～

### ア 委員①

- ・防災ではとても良い取組をしているが、どのように保護者に伝えているのか。  
→防災の取組に関しては、防災だよりをホームページで年間2回掲載している。
- ・イベント等の魅力情報だけでなく、職員のコメントや日々の安全管理等、裏側についても発信している。
- ・防災の面だが、児童生徒が公園にもよく来てくれる。どこかで合同訓練はできないかと思う。支援が必要な人との訓練は、こちらの職員の研修にもなるので検討できたら嬉しい。
- 合同訓練は面白いと思う。以前の勤務校が沼津だったが、近隣の商業施設との合同訓練をしていた。避難の方法や従業員の避難誘導を学ぶ場として意義があった。本校の児童生徒にとっても学校外の場所での避難を学ぶことができる。検討の必要あり。
- ・発信:動画は伝えやすいが撮るのが大変。例えばNHK等に取材依頼をしてはどうか。プライバシーの面などもあるが、朝の番組などを見ると熱心に取り組んでいて、とてもよく編集してくれている。その放送動画を使い回しもできる。「動画を見て下さい。」より「今度、NHK観て下さい。」の方が興味を持ってもらえるのではないかな。

### イ 委員②

- ・防災への取組について、PDCAを回していることが分かり感動した。医療的ケアについては看護師不足であり、これには処遇の問題もあると考えている。県で12人看護師が増員とあり、成果もあると思うが足りるのかと心配もある。かなり医療的ケア度が高い人もいるので、看護師がこども病院で見学するなど一緒に勉強できると良いと思う。看護の知識がどんどん変わっていく中で新しいものを吸収していけば、看護師も不安が解消でき。病院でも困りごとを聴くことにつながる。
- 看護師の勤務に関しては基本的に子どもが在籍している間となる。教員がケアの対応を  
研修する期間や、看護師の県の研修などは勤務時間内となるが、それ以外は勤務時間として取れない。学校としてこども病院との連携など必要なものとして声を挙げていきたい。処遇…時給は重要ではないかと要望として挙げている。
- ・病院の中もポスターだらけで何を見たらいいのかわからない状態。貼らなければいけないものも多い。最近はQRコードを付けている。若い保護者を中心にしてくれる。昇降口にQRコードを付けた掲示物を貼っておくと見てくれると思う。
- ・こども病院では、教育面でもQRコードを活用している。看護師の講習など、動画を見られるようにすると、若い人はQRコードを使って短いコンテンツで勉強するようにしている。
- ・学校の施設は今後建替えてもらえるのか。先生方は一生懸命やっているが、建物や舗道、校内の柵などの面から、避難したくても出られないようになってしまっているのではないかな。金銭面のことになるが、(設備が整うと)子どもたちが、校内でも安心して過ごせるようになるのではないかな。
- 防災については、授業中だけでなく、登下校の時間も考え、学校以外の周辺の施設との協力などを考えていく。校外学習、登下校時にスクールバス乗車中で発災した場合、市内の特別支援学校と無線で連絡が取り合えるようにはなっている。また、管理職間での訓練もしている。

### ウ 委員③

- ・防災も併せ近くの施設で協力していくことが大切。学校が休みであるとか、夜間の場合、例えば安否確認などどうしていくか考える必要がある。安否確認は大切だが下手に電話されてもつながらなくなると思う。うちの子はどうしているだろうと心配になるだろうと思われる。(学校での対応も教えてもらいたい。)

・施設でも、医療的ケア対象の方が通所事業所を見学したいと来る。どうやって地域で育てていくのか、行政に伝えていく必要がある。

→医療的ケア対象児童生徒の保護者待機は教育委員会でも減らしていく方向。本校は人工呼吸器装用児のモデル事業2年目となり、来年度は他校でも人工呼吸器の対応が始まる。県の来年度予算が公表され、その中で看護師の学校配置が12名増に。保護者待機は、県でも様々な研修時間を短縮していく動き。

→医療的ケア対象の防災は十分に対応しきれていない。昨年度の台風でも連絡や物品等対応に不備が見られた。清水地区が停電し、充電も大変な中、携帯電話に様々な連絡が入って来た。それで電池が消耗してしまい、ありがたいが迷惑でもあったとの報告もあった。安否確認や情報伝達の方法は整理が必要。

・ホームページで防災コーナーなどはあるか。防災カードの活用なども参考にしたい。今回のように現場に近い所での話し合いも重要だが、もう少し大きな病院長とかの集まりがあればよい。現場に近い所での声が実際のものになっていく。

#### エ 委員④

・設備に関してはPTAからも県に要望を上げているが、どの学校も老朽化が問題となっている。挙げているがなかなか動かないのが現状。

→施設に関してはPTA会長の言うとおりで、静岡北特別支援学校が建替えとなり解体が始まる。特別支援学校についても動いてはいる。

・保護者の地区会:防災の話し合いでは、昨年度は東日本の震災について現地の方の話聞き、今年度は地域の保護者同士で心配な点などの話をした。その中でケアのことが話題になった。災害時に避難所に行っても、自分(保護者)以外に見る人がいない。学校にいる間は保護者には安心感があるが、避難所では不安がある。能登半島地震の被災者とメールのやり取りをした。その方はすぐに避難したが道が通れない。高台に避難したが、オムツ交換も十分にできない。幸い自宅に電気が通っていたので帰った。夫婦揃っていたために対応できたが自助に最初から課題があった。皆が被災した時、助け合えるかが課題。

・防災の取組について。ホームページだと見ない、伝わりづらいとの声がある。(学校が)やっていることを知らない保護者が多い。とにかく入り口として、まず、やっていることを伝える。医療的ケアのことやミニ訓練をやっていることなど取組を知らない人がほとんどだったので、そこから伝えていくと良いのではないかな。

・手紙も、文章だけで難しく書いてあっても見ない方が多いのかなと思う。イラスト付きであれば読んでもらえるのではないかな。年1回でも、内容をソフトなものにして出すなどの工夫が必要。

・伝える時に、情報量が多くなっても伝わりにくかったり、硬い文章になるとどうしても敬遠してしまったりする。一言だけで伝えていく工夫が欲しい。触りの部分だけでも伝えて、反応があれば細かく伝えるなどしてもよいかと思う。

→ホームページで保護者が主として見るものは、児童生徒の様子。その中で教員は、学習的なものを伝えようとしてしまう。寄宿舎では防災の取組など挙げてくれている。今後各学部の内容についても考えていきたい。

・保護者の地区会での意見として、防災グッズ収納ケース等に入らないとの声があった。状況確認していただき、検討いただけるか。また、能登半島地震で、休み中なので学校に置いてある防災グッズを持ち帰っていたから助かったとの話があった。長期休業中の持ち帰りについても、(大変等の)様々な意見はあると思うが検討していただけたらと思う。

本日は、一年間のまとめとして今年度テーマにした防災だけでなく、学校全体の取組に対して多くの御意見、来年度のヒントを沢山いただいた。来年度どのような形で学校運営に反映させていくか、一つの形としていけるように今後検討していきたい。